

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー  
小山 薫堂氏

1964年6月23日、熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め！電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



1月24日、プレゼンテーションにて

「伝統を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む」「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト」。

福井県選出の匠、ガラス作家のマエダミユキさんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

3年目となった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの制作に取り組んだ。

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表会では、国内外の百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者など

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

また当日は、2019年の新たな取り組みとして、全国の匠と、世界的クリエイター（コラボレーター）が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏（建築家）、廣川玉枝氏（SMARTAクリエイティブディレクター）、森永邦彦氏（ANREALAGE代表取締役社長 / デザイナー）、辰野しずか氏（クリエイティブディレクター）/ プロダクトデザイナーが登壇し、思いを語った。



プレゼンするマエダさん

その後の絵付けだ。ガラスの持つ透明感や、光によって変わる表情を大切にしたいと、使う塗料は白のみ。ガラス表面を塗りつぶしてから、竹串で模様を描きながら削り落とししていく。まるでそこに命を宿しているかのようなリズミカルな草花模様や、異国のまらの風景。自由な線で模様が描かれた茶器やうつわ、香水瓶、花器などのさまざまなオリジナルのガラス作品は、これも心地よい空気に包まれている。

今回のプロジェクトへの参加を機に、マエダさんはこれまであまり時間が割けなかったガラスジュエリーの制作を決意。いくつかのデザインを考案したが、「伝統工芸ではない自分のモノづくりを通して、どのように福井の魅力を伝えるのか、アイデアがなかなか思いつかず悩んだ」と振り返る。

また当日は、2019年の新たな取り組みとして、全国の匠と、世界的クリエイター（コラボレーター）が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏（建築家）、廣川玉枝氏（SMARTAクリエイティブディレクター）、森永邦彦氏（ANREALAGE代表取締役社長 / デザイナー）、辰野しずか氏（クリエイティブディレクター）/ プロダクトデザイナーが登壇し、思いを語った。

その後の絵付けだ。ガラスの持つ透明感や、光によって変わる表情を大切にしたいと、使う塗料は白のみ。ガラス表面を塗りつぶしてから、竹串で模様を描きながら削り落とししていく。まるでそこに命を宿しているかのようなリズミカルな草花模様や、異国のまらの風景。自由な線で模様が描かれた茶器やうつわ、香水瓶、花器などのさまざまなオリジナルのガラス作品は、これも心地よい空気に包まれている。

今回のプロジェクトへの参加を機に、マエダさんはこれまであまり時間が割けなかったガラスジュエリーの制作を決意。いくつかのデザインを考案したが、「伝統工芸ではない自分のモノづくりを通して、どのように福井の魅力を伝えるのか、アイデアがなかなか思いつかず悩んだ」と振り返る。

自然に囲まれ制作  
美しく透き通るガラス



下描きはなし。丁寧に時間をかけて絵付けをする

今回のプロジェクトへの参加を機に、マエダさんはこれまであまり時間が割けなかったガラスジュエリーの制作を決意。いくつかのデザインを考案したが、「伝統工芸ではない自分のモノづくりを通して、どのように福井の魅力を伝えるのか、アイデアがなかなか思いつかず悩んだ」と振り返る。



エリア・コンサルティングの様子



工房2階のギャラリーからの風景

今回のプロジェクトへの参加を機に、マエダさんはこれまであまり時間が割けなかったガラスジュエリーの制作を決意。いくつかのデザインを考案したが、「伝統工芸ではない自分のモノづくりを通して、どのように福井の魅力を伝えるのか、アイデアがなかなか思いつかず悩んだ」と振り返る。

今回のプロジェクトへの参加を機に、マエダさんはこれまであまり時間が割けなかったガラスジュエリーの制作を決意。いくつかのデザインを考案したが、「伝統工芸ではない自分のモノづくりを通して、どのように福井の魅力を伝えるのか、アイデアがなかなか思いつかず悩んだ」と振り返る。

今回のプロジェクトへの参加を機に、マエダさんはこれまであまり時間が割けなかったガラスジュエリーの制作を決意。いくつかのデザインを考案したが、「伝統工芸ではない自分のモノづくりを通して、どのように福井の魅力を伝えるのか、アイデアがなかなか思いつかず悩んだ」と振り返る。



バーナーワークの作業風景

ガラスで新しいコミュニケーションを

マエダミユキ 福井 / ガラス作家



完成プロダクト「SAKE ring(サケリング)」

展示会決定!

期間：3/30(土)～4/7(日)  
会場：レクサス福井  
ショールーム  
(福井市大和田 2-2002)

3/30、4/7にはマエダさんにお越しいただきます。詳しい内容はレクサス福井までお問い合わせください。

こうして完成したマエダさんの作品は、お猪口付きのリング「SAKE ring(サケリング)」やガラス玉のネックレス「CHANDELIER necklace(シャンデリアネックレス)」。

「普段作っているのは暮らしかで形作られた耐熱ガラスで、軽いうえに衝撃にも強い。サケリングには、福井の豊かな自然をイメージして、植物や雪の模様を描いた。生駒氏からの「実用性も考慮すべき」というアドバイスを受け、リングを置けるガラス台もセットで制作。シャンデリアネックレスは、中空のガラス玉が連なり、専用の照明器具にひっかければシャンデリアのような煌めく光が楽しめる。

「普段作っているのは暮らしかで形作られた耐熱ガラスで、軽いうえに衝撃にも強い。サケリングには、福井の豊かな自然をイメージして、植物や雪の模様を描いた。生駒氏からの「実用性も考慮すべき」というアドバイスを受け、リングを置けるガラス台もセットで制作。シャンデリアネックレスは、中空のガラス玉が連なり、専用の照明器具にひっかければシャンデリアのような煌めく光が楽しめる。



照明としても楽しめる

今回のプロジェクトへの参加を機に、マエダさんはこれまであまり時間が割けなかったガラスジュエリーの制作を決意。いくつかのデザインを考案したが、「伝統工芸ではない自分のモノづくりを通して、どのように福井の魅力を伝えるのか、アイデアがなかなか思いつかず悩んだ」と振り返る。



完成プロダクト「CHANDELIER necklace(シャンデリアネックレス)」



マエダ ミユキ  
福井 / ガラス作家

1977年福井県生まれ。専門学校でガラス工芸を学んだ後、1998年からあわら市の「金津創作の森」内のガラス工房「EZRA GLASS STUDIO」に5年間勤務。2003年、水上竜太氏とともに独立し、あわら市で「glass atelier えむに」を開く。2012年、坂井市春江町に工房を移転。国内外で個展を開催したり、企画展に参加したりするなど、夫婦で精力的に活動している。

